

ミニコミ紙を使った地域情報・防犯情報の提供

読売センター夕張中央 所長 高橋勇治

所長1人で取材・執筆・印刷
地域ニュース、防犯情報発信
地域に密着した活動

● 実施期間

1961年～

● 実施地域

北海道夕張市内(YC夕張中央、YC沼の沢、YC夕張の区域内)

●活動概要

北海道夕張市の読売センター
夕張中央所長の高橋勇治さんは、
1961年からミニコミ紙「夕張よ
みうり」(98年からは「読売新聞
メディアニュース(夕張版)」に
改称)を週3回程度、随時発行
し、夕張市内の読者に届けてい
る。

「その日に起こったニュースをその日の紙面に」をモットーに、地域ニュースを掲載している。取材・執筆・印刷のすべてを1人でいき、読者に届けている。

地元警察署から提供される防犯関連の話題も積極的に掲載していることから、「地域住民の安心・安全の拠り所となっている情報紙」との定評がある。

✻

高橋勇治（たかはし・ゆうじ）

■取材中



■ ただいま編集集中



■ 夕張警察署からの謝辞

平成21年3月30日

読売新聞東京本社北海道支社
販売部空知担当 秋田佳孝様
読売新聞夕張中央メディアセンター
メディアニュース編集人
所長 高橋勇治様

夕張警察署次長
寺林和彦

平素の「警察広報業務」の協力に対する謝辞について

みだしのことについては、平素から警察広報業務の重要性について深くご理解をいただき、常に貴機関の新聞面には、当該管内におかれの安全対策や防犯等の各々の取組の未雨綢繆に於ける防犯活動、関係機関団体等に対する啓蒙、警察官採用募集活動に関する情報提供など、各種警察活動に状況を積極的に掲載していただいておりますことと感謝申し上げます。次ぎであります。

貴機関紙については、長い歴史と伝統のもと、地元住民に理解され尊敬されていのもであり、管内の地域住民が「安心・安全」の拠り所となっている情報機関紙である。とどうも一言過ぎるではないと考えっております。

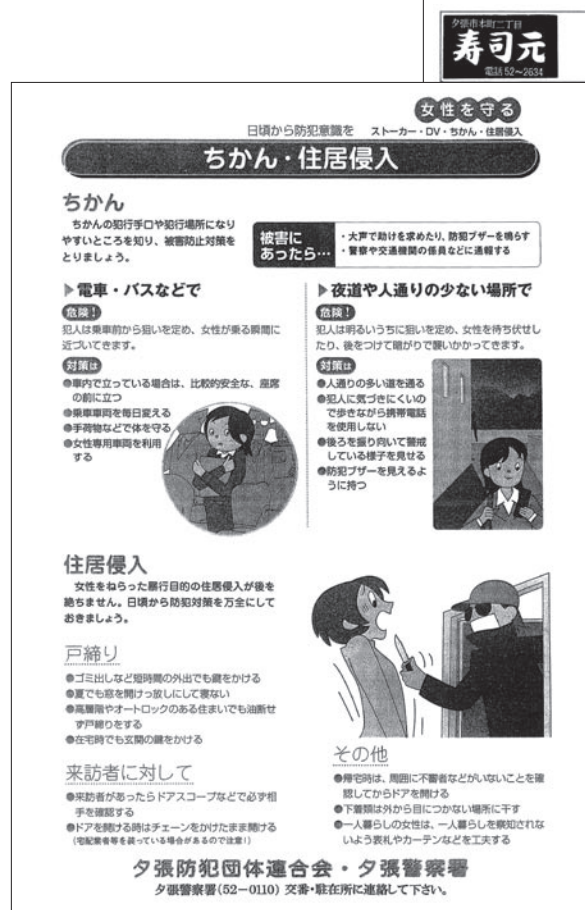
当夕張警察署において貴機関紙が得ている住民からの信頼度を模範とし、今後「夕張市の安全・安心」に向け「各々の警察業務」に取り組むことと致しております。貴局のおかれましては、今後とも当警察官の係の重要性について引き続きのご指導をお願いいたします。当署からの各種警察活動の実態等を積極的に新聞に掲載されるなど、今後とも更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

以...

◎ミニコミ紙「読売新聞メディアニュース」夕張版



2010年4月26日付 (発信情報1360号)



2011年9月26日付2面



2008年4月12日付(発信情報1099号)



2011年9月23日付(発信情報1580号)

カヌーを通じての自然体験活動

秋田魁新報大森販売所 店主 渡部 卓

カヌー教室を通じて 中学生に自然環境を体感させる活動

●実施期間

2001年～

●実施地域

秋田県横手市旧大森町

●活動概要

秋田県横手市の秋田魁新報大森販売所店主の渡部卓さんは、2001年から地元中学校からの依頼を受けて、毎年、中学3年生約15人を対象に、ゆとり教育の選択授業の一環としてカヌーを教え始めた。

カヌーを知ってもらうとともに、環境破壊が進む川の実情をも知ってほしいとの思いから担当することを決めた。

カヌーを教わった卒業生たちからは、この活動を通して川の自然環境、水質の悪化、ゴミの多さを体感できたなどの感謝の声が寄せられている。

*

渡部 卓（わたなべ・たかし）

■地域貢献活動の概要

2001年に受け持った当初は、道具が全くなく、自腹でカヌー12艇を約60万円で購入した。授業は5月上旬から10月上旬までの週1回2時間（夏休みは除く）。授業内容としては、
〈第1クール〉5月上旬から6月末
プールでカヌーの乗り方、パドルの使い方、「沈」（カヌーがひっくり返ること）した時の対応を学ぶ。
〈第2クール〉7月上旬から7月下旬
地元河川大納川（雄物川と比べて流れが緩い支流）で、流れに對しての対応や、深浅への対応を学び、川に慣れる。
〈第3クール〉8月下旬から9月末
雄物川で、木の根など埋まっている物への対応や、流れてくる危険物への対応、急な流れへの対応を学ぶ。
〈仕上げ〉10月上旬
雄物川下り、旧大森町から旧大曲市まで約15キロを約3時間かけて下る。
その他の活動としては15年前から地元「保呂羽山少年自然の家」で主催、実施している自然体験活動プログラム「エンジョイカヌー」を担当。
今まで、国民体育大会秋田県カヌー監督を4度務め、10月に開催した山口国体でも監督を務めた。

■活動の成果

岸に流れついたもの、流れてくるものは空き缶やビニール袋、プラスチック容器にとどまらず、冷蔵庫、洗濯機の大形家電、市場に出荷できない野菜やすいか、など様々。これを目の当たりにし、生徒たちの環境汚染に対する意識が高まった。
第1クールでは自分は自分という意識が強く、他人の失敗を笑っていた生徒たちが、最終の雄物川下りになると、自然は怖いものだということを確認し、連帯感が高まり、他人を思いやる気持ちが自然と強くなる。
ただ単にカヌーを教えるだけではなく、子供たちとのいろいろな会話を通じて、自分がやっている新聞配達という仕事、新聞というものに興味を持つようになってくれたと感じている。このような形で人脈形成され、配達員欠員、募集の時などにはいろいろな方が、親身になって協力してくれるようになった。



◎カヌー教室の様子

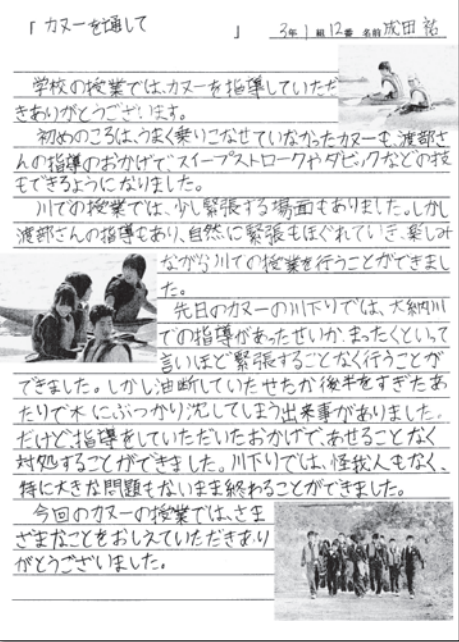
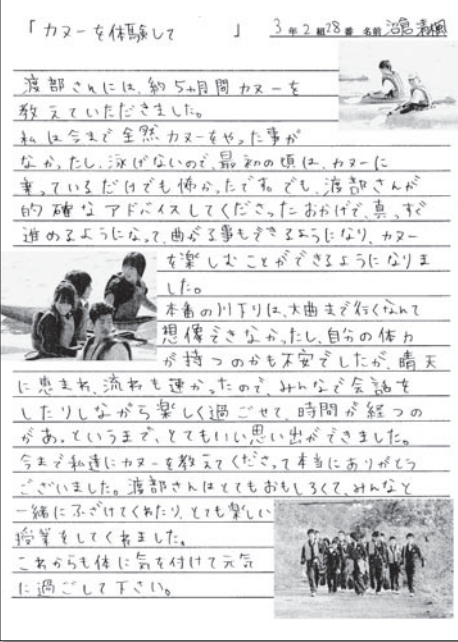


渡部店主（右から3人目）



◎大森中学校生徒からお礼の作文抜粋

- 雄物川を下っているときは、魚とか木とか見ながら楽しい気持ちでカヌーをやれました。渡部さんと話したりして下ることができて良かったと思っています。カヌーの難しさや楽しさを知ることができました。
- 普段は面白いトークで僕たち15人をいつも笑わせてくれました。時には厳しい言葉をかけてくれて精神的にも成長しました。今までのご指導ありがとうございました。
- 実際に川を下ってみると、流れが強かったり、弱かったり、浅いところや深いところがあり、とても大変でした。しかし、自然に触れ合いながら、また、友達と話をしながら、楽しく行うことができました。高校でも機会があれば、やってみたいと思います。そして、渡部さんとまた川を下りたいと思います。



古紙回収利益で小学校に図書寄贈

ASA 下田 村越由美

古紙回収による資金で
地元図書館や小学校へ
図書を寄贈

●実施期間

2001年～

●実施地域

静岡県下田市

●活動概要

静岡県下田市のASA 下田の村越由美さんは、2001年から毎月1回、従業員とともに新聞古紙の回収によって得られた資金で、毎年約100冊の図書を購入して下田市内の7小学校ならびに市立図書館へ寄贈している。

この活動に対し、子どもたちから多くの感謝状が届くなか、下田市教育委員会からは「毎年、最新の情報が詰まった年鑑や子どもたちが楽しめる漫画の歴史などをいただきありがたい。大事に活用したい」との感謝の声が寄せられている。

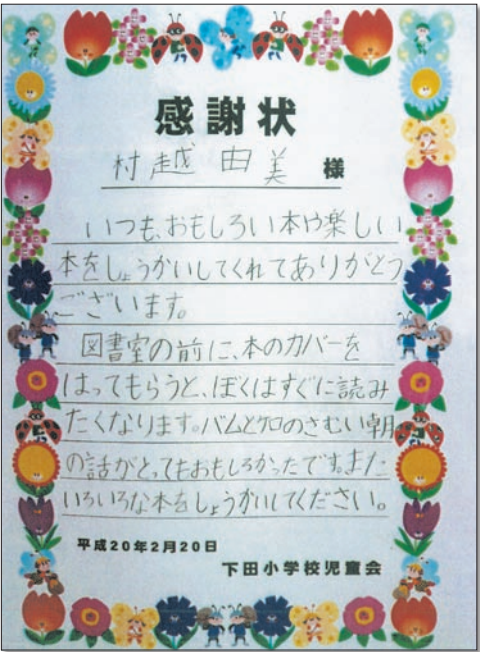
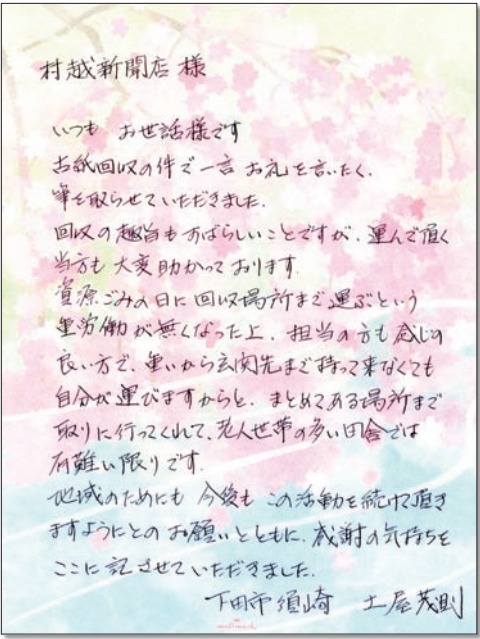
*

村越由美（むらこし・ゆみ）

■実施内容

1997年	市立稲生沢小学校と古紙回収事業で提携
2001年	市立稲生沢小学校に「ジュニア年鑑」の寄贈を開始
2005年	市立下田小学校に寄贈を開始
2009年	市内の7小学校（全校）と市立図書館へ寄贈

毎年、子どもたちから手書きの感謝状が数多く送られてきている。



朝日新聞（静岡） 2011年5月14日付